

救急部・集中治療部

<https://www.hosp.yamanashi.ac.jp/sinnryoka/kyukyuka>

プログラムの概要

専門科に進む前に身につけるべき医師としての態度、患者の病態の把握、基本的な全身管理、疾患へのアプローチの仕方を学ぶためのプログラムである。

アピールポイント

1. 2次輪番の診療を通じて、様々な疾患の診療について広く学ぶことができ、いろいろな状況に対応できる経験をつむことができる。
2. 多種多様な社会的背景を持つ症例を多く診療することで、医師としての社会性を身につけることができる。
3. 救急外来や集中治療室における最重症症例の診療を通じて、高度医療の最先端の診療技術を習得し、入院患者の急変時などにおいて、迅速な診断と初期対応、集中治療へ移行すべきかの判断、集中治療医へのコンサルトや移送のタイミングの決定などを行いうる能力を培う。
4. 集中治療室には、様々な重症疾患症例が入室し、当該科医師のみならず、我々を含めた複数の科の医師が治療に参画している。そのような環境では、患者に最適な治療を行うために医師が各科の垣根を越えた濃厚なディスカッションを行っており、急性期医療の幅広い知識だけではなく、各専門分野の医療者同志の貴重な繋がりを得ることができる。

具体的な研修内容

1. 救急外来を受診する救急症例の診療を行う。
 - 1) 一般的な身体所見をとる。
 - 2) 重症度を評価し、緊急性の有無を判断する。
 - 3) 幅広い救急疾患に対して適切な初期診療を行う。
2. 一次救命処置につき説明し、施行する。
 - 1) 心肺脳蘇生法(CPCR)の原理を説明する。
 - 2) 気道確保の方法を列記し、実施する。
 - 3) 人工呼吸を施行する。
 - 4) 心臓マッサージを施行する。
3. 二次救命処置につき説明し、施行する。
 - 1) 気管挿管を施行する。
 - 2) 静脈確保、中心静脈確保を施行する。
 - 3) 救命処置に使用する薬剤の種類につき述べ、それらを使用する。
 - 4) 電氣的除細動器を適切に使用する。
4. 多発外傷・熱傷・急性腹症症例の診療を行う。
 - 1) 救命処置を行う。
 - 2) 重症度を判定する。
 - 3) 診断の手順を計画する。
 - 4) 必要な診療科で医療チームを編成し、その指揮をとる。
5. 薬物中毒症例の診療を行う。
 - 1) 薬物同定のための情報を収集する。
 - 2) 薬物同定キットを用い診断する。
 - 3) 胃洗浄を施行する。
 - 4) 活性炭経口大量投与法を施行する。
 - 5) 血中より薬物排除法の種類を列記し、それらを施行する。
 - 6) 薬物中毒に対する血液浄化法の適応を述べる。
6. 重症症例についてICU管理の必要性を判断する。
 - 1) 集中治療室入室症例の重症度評価法の種類を列挙し、その有用性につき説明する。
 - 2) 多臓器不全(MOF)の病態を説明し、診断する。
 - 3) 人工呼吸器管理を施行する。
 - 4) 多科にわたる外傷・疾患を有する重症症例の管理を行う。



集中治療の現場



毎朝ICUで行う多職種カンファレンス

7. ICUにおける重症症例の管理を行う。
 - 1) 急性心不全に対する薬物療法, IABP, 人工心臓につき説明し、実施する。
 - 2) ARDS, 喘息重積発作などの急性呼吸不全の病態を把握し、人工呼吸管理, 人工呼吸器につき説明し、適切な呼吸管理を実施する。
 - 3) 急性肝不全・劇症肝炎の病態につき説明し、人工肝補助療法を実施する。
 - 4) 急性腎不全の病態につき説明し、人工腎補助療法を実施する。
 - 5) 多臓器不全に対する各種人工補助療法について説明し、それぞれ適切に施行する。
 - 6) 重症症例の水分・電解質・酸塩基平衡の異常を指摘し、その病態を把握した上で、その症例にふさわしい輸液管理を実施する。
 - 7) 重症症例に対する栄養管理の重要性を述べ、実施する。